

1 単元名 Program 4 キャンプの準備

2 指導観

○ 携帯電話やパーソナルコンピュータ等の普及により、情報を簡単に入手することができ、世界中の誰とでもコミュニケーションをとることが可能になった。一方で直接人と話したり、自分の意思を伝えたりするのが苦手な生徒たちが増えてきている。英語学習の目的は、コミュニケーションの手段としての外国語を身につけることだけではない。学習を通して、異なった文化を理解し、外国の人とも意欲的にコミュニケーションを図ろうとする積極的な姿勢や態度を育成することである。

本単元は、キャンプという生徒にとって身近な題材を取り上げている。言語材料は、日本語の概念にはない名詞の複数形、それに対応した数の尋ね方、「～はだれですか」と尋ねる時の言い方である。また、「～しましょう」「～はどうですか」など、人に提案するとき実際にの場面でよく使われる表現が取り上げられている。キャンプに向けて子ども同士が楽しく会話する様子を学習することで、実践的なコミュニケーションに必要な表現を身につけるとともに、英語を身近に感じることが期待できる。

○ 本学級の生徒は、37名（女子18名、男子19名）である。小学校での英語活動を経て、英語学習への興味関心が高い生徒が80%程いる。授業では大きな声で単語の発音、読みの練習を行い、特に歌ったり、話したりする学習に意欲的である。英語の授業に関するアンケートでは、歌で英語のリズムや発音を覚えることができるのでぜひ続けてほしいとの要望が70%以上あった。ALTとのコミュニケーションにも積極的で、自分から話しかけたり、あいさつしたりする生徒が多く、英語を話せるようになりたいという意欲が感じられる。カードやインフォメーションギャップを使った、ペアやグループ活動が楽しいと感じている生徒は60%程度である。しかし、一人で行う発表にはやや消極的で、ペアやグループでの活動では、組む相手によって学習意欲に差が出てくる。中には、普段から話すことが苦手な生徒もおり、生徒同士での練習ができていない。

また、書くことに苦手意識があり、単語をどうやって覚えたらいいか小テストの実施などを望む声も半分ほどあり、基礎学力定着のためにも、単語や基本文を習得させる工夫が必要である。

○ 指導にあたっては、英語を話すことが苦手な生徒が、意欲的に取り組める教材の工夫と、誰とでもペアやグループを組み、コミュニケーション活動に取り組める授業を目指す。まず、授業の最初に教師自作の基本文チャンツを取り入れ、全体やペアで歌うことによって、楽しく繰り返し練習ができようにし、基本文の定着を図る。次に、新しい言語材料を導入した後、基本文の練習はカードやインフォメーションギャップを用いて、ペアまたはグループで行わせる。その際、誰とでも協力して学習できるように、組む相手は授業ごとに変える。また、ペアやグループ活動の活性化を図るために、対話練習や活動ごとに、お互いを評価し合うことができる活動記録表を用意し活用させる。さらに、学習した基本文を実際の場面でのどのように使うのかを理解させるために、スキットづくりに取り組ませる。最初は、絵を見てスキットを作り、次に対話の一部を選択肢から選ぶ、最後に自分たちでオリジナルのスキットをつくるなど、段階を追って取り組ませ、苦手な生徒の活動に配慮する。書くことの定着を図るために、穴埋め方式で基本文をくりかえし練習できるワークシートを課題として与える。

3 目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・スキット作りを通して、積極的に英語を使って会話しようとする。
表現の能力	・複数形や How many? Who?を用いた疑問文を使って相手に尋ねたり答えたりすることができる。
理解の能力	・複数形や How many? Who?を用いた相手からの質問内容が理解できる。
言語や文化についての知識・理解	・複数形の使い方についての知識があり、How many? Who?を用いた表現を理解している。

4 指導計画（7時間）

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 (評価の方法)	評価規準(関心・意欲, 表現, 理解, 言語・文化)		Cと判断される生徒への手だて
				A	B	
2	数や人物について尋ねるスキットづくりをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・複数形の語尾の発音に留意させるため, CDをくり返し聞く活動を設定する。 ・グループの状況に応じながら, 複数形の練習や発表を行わせる。 	関: ペアやグループでの活動に意欲的に取り組もうとしている。 <様相チェック> 表: 身の回りの物について, 複数形を用いて言うことができる。 <活動状況チェック>	・協力してペアやグループ活動に取り組もうとしている。 ・相手に意欲的に質問し, 答えようとしている	・例文を参考に複数形を使って, 身のまわりの物について, 英文で表現することができる。	・例文を提示し, 複数形の決まりに気づかせ, 多くの英文を書くように指示する。
	S1の基本文を理解し, それを用いて表現活動をする。 ・写真や図を用いて, 物の数を相手に伝える。					
1	S2の基本文を理解し, それを用いた表現活動をする。 ・How many~?	<ul style="list-style-type: none"> ・How many~?の疑問文が使われる状況やその用法を正しく理解させる。 	関: How many?の文を用いてペアやグループワークに積極的に取り組もうとしている。<活動状況・発言チェック>	・How many?の文を用いた疑問文や答えの文を, プリントを見ないで言うことができる。	・How many?の文を用いた疑問文や答えの文を, プリントを見ながら言うことができる。	・ペアやグループでの助け合い学習を活発にし, 友達からのアドバイスを受けながら活動できるようにする。
	S2の基本文を用いて, 友達と持ち物について尋ねあうスキットをつくる。					
本時 1	S2の新出単語, 教科書の本文を理解し, Q&Aに答える。	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを聞き取らせ大意をつかめるように, ヒントになる単語カードを掲示する。 	関: 聞き取りに集中し, 積極的に質問に答えようとしている。 理: 教科書の本文の重要な部分を聞き取り, 質問に答えることができる。 <発言・プリントチェック>	・本文の内容に関する質問に80%以上答えることができる。	・本文の内容に関する質問に50~80%答えることができる。	・絵や単語カード等ヒントを参考にしながら, キーワードを聞き取らせ, ワークシートへの記入を援助する。
1	S2の新出単語, 教科書の本文を理解し, Q&Aに答える。					
2	S3の基本文を理解し, それを用いて表現活動をする。 ・Who~?の文を用いて身近な人物についてたずね合うスキットをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・Who~?の疑問文が使われる状況やその用法を正しく理解させる。 ・生徒の状況に応じて, 段階を追った対話練習をさせ, スキットの作成を行わせる。 	関: ペアでのスキットづくりに意欲的に取り組もうとしようとする。 表: 人物の尋ね方, 答え方を用いてスキットを作成し, 発表できる。 <記述内容分析・発表チェック>	・基本文を用いたスキットを作成し, 英文を見ずに, アイコンタクトや抑揚に気をつけて表現できる。	・基本文を用いたスキットを作成し, 時々英文を見ながら発表できる。	・ペアワークやスキット作成が進めやすいような段階を追ったワークシートを用意する。
	S3の新出単語, 教科書の本文を理解し, Q&Aに答える。					

